

中期経営計画の進捗に関するご報告

当社は、昨年（2024 年）5 月に発表いたしました中期経営計画（3 カ年計画）の 1 年目が終了いたしました。そこで 1 年目の「進捗・成果」および今年度以降の「計画のアップデート」を行いましたのでご報告いたします。

1, 経営環境

アフターコロナ以降昨年まで顕在化しておりました物流など諸課題が解消に向かう中、日本国内、海外ともに総じて包装関連需要は概ね底堅く推移いたしました。

一方、インフレ進行によるコストの継続的な上昇、社会的な重要課題である環境負荷低減や地政学的リスクへの対応、関税問題をはじめとする経済・貿易リスクの高まり等、引き続き堅牢な経営の実現が求められる環境が続くと認識しております。

2, 経営の方向性

当社グループは、小容量の液体包装分野において利用される包装機械「液体充填機 DANGAN」シリーズと最適な包装性能を実現する高性能包装フィルムの双方を提供する唯一のメーカーとして、これまで様々な液体包装における経験と知見を蓄積してきました。

上述の経営環境を踏まえ、長期視点から、経営リスクをコントロールしつつ持続的成長を実現する経営を目指し、「液体包装フィルム」「液体充填機」「液体包装知見」をさらに融合・進化させ、お客様のニーズ及び社会のニーズに応えてまいります。

ビジョン

フィルムの製造販売にとどまらず

液体包装のプロフェッショナルとして、

刻々変化するお客様のあらゆる包装にかかわる課題を解決する

『総合エンジニアリングカンパニー』(注)を目指します。

(注)フィルムエンジニアリング・マシナリーエンジニアリング・プロセスエンジニアリングの総体

3, 中期経営計画 1 年目（2025 年 3 月期）の振り返り

中期経営計画の 1 年目である 2025 年 3 月期は、高付加価値のフィルムの売上増加および価格改定効果に加え、海外事業の回復、円安による為替影響もあり、売上高、営業利益とも計画を上回る実績となりました。

(億円)	売上高		営業利益	営業利益率	
	国内	海外			
計画	295	243	52	20	6.7%
実績	308	247	61	24	7.7%
計画比達成率	104%	102%	117%	120%	115%

■国内事業

原材料価格・エネルギー価格の高止まりをはじめとするコスト増加要因もありましたが、受注が底堅く推移すると同時に価格改定も進めた結果、ほぼ計画通りの売上高となりました。

加えて、生産性向上をはじめとした原価低減活動も強力に推進したことから、利益は計画を上回る実績を確保することが出来ました。

■海外事業

米国市場における物流問題が解消に向かう中、フィルムの在庫調整による買い控え局面が一巡し、受注ベースが回復しました。

また、海外全地域においておしなべて設備投資意欲が回復に向かったことから充填機械も堅調な販売実績を実現しました。

円安による為替影響が加わり、海外全体で計画比+17%の売上を確保することが出来ました。

4, 中期経営計画 2027 の基本方針

一方、足許および将来に目を転じますと、前述 1.で述べました通り、経営に影響を与える諸リスクが萌芽・顕在化する中、堅固な経営を実現するため、引き続き今中期経営計画で掲げた経営戦略の確実かつ迅速な遂行を進めます。

中期経営計画 2027 基本方針

Go forward to The Next Era

I. 既存事業の収益力最大化の戦略

国内既存事業の利益額・利益率の最大化

II. 成長のための戦略

海外における良質な事業基盤の拡大

新事業・新分野の創出

III. 持続的成長を支える経営基盤強化の戦略

有機的な全体戦略の策定と確実な実行・管理の実現

5, 中期経営計画 2027 の概要

■既存事業の収益力最大化の戦略

国内外における既存事業の利益額・利益率の最大化

当社事業の中で最大の売上、利益を占めるフィルム事業において、①販売価格の最適化、生産性の更なる改善を追求し引き続き強力に推進すること、②環境対応フィルム等の開発に代表される新たな製品付加価値の創出に努めることで更なる利益額、利益率の向上を目指します。

充填機械事業においては、昨年市場投入しました新機種を軸に拡販に努め、確実な需要取り込みに努めてまいります。

■成長のための戦略

海外における良質な事業基盤の拡大

引き続き、“数量”と“利益”の両立を前提とした事業拡大を目指し、各地域の特性に応じたローカル戦略の展開をスピーディーに行い、新たな商圏の拡大に努めてまいります。

新事業・新分野の創出

昨年上市いたしました“包装工程の見える化”を実現する IoT サービス「H.U.G.Home」を軸に、新・付加価値として継続的に発展・拡大を進め、お客様の生産性改善に貢献する新たな事業として育成してまいります。

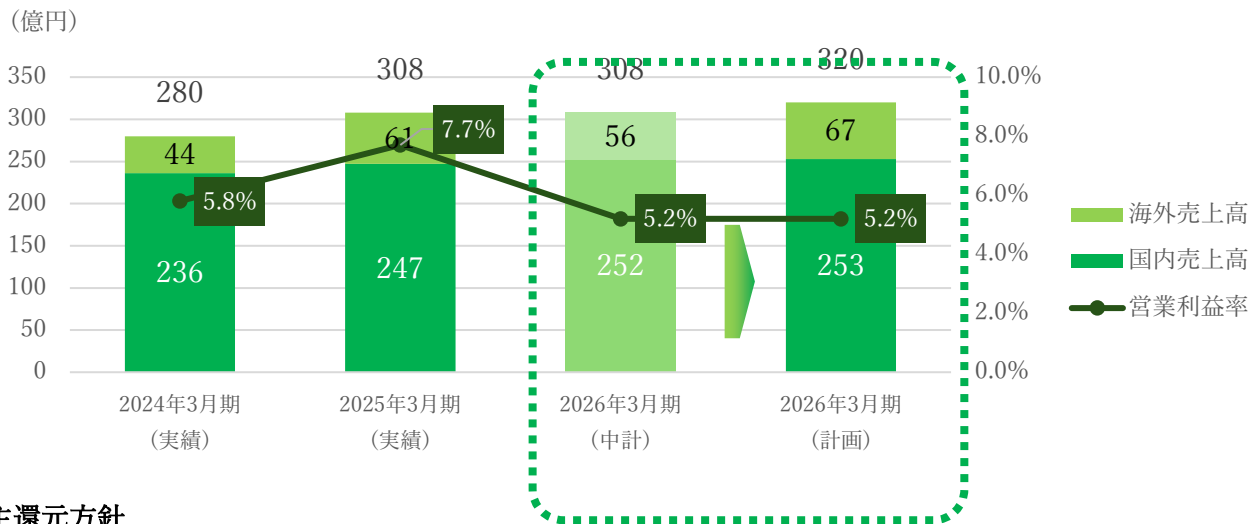
■持続的成長を支える経営基盤強化の戦略

有機的な全体戦略の策定と確実な実行・管理の実現

上記戦略を支える適切な経営基盤の構築を目指すため、2025 年 4 月 1 日より、ホールディング体制に移行いたしました。これにより、①事業バリューチェーン毎の P/L 経営の深化、②投下資本効率の向上を目指す B/S 経営の徹底による利益の最大化、③意思決定の迅速化および人的戦略の高度化による強靱な事業態勢の確立および確実な戦略遂行を行います。

▼係数計画（連結ベース）

昨今の事業環境を踏まえ、2024 年 5 月に公表した係数計画から 2026 年 3 月期の計画を見直しております。



6, 株主還元方針

当社における基本的配当方針は従来と不変とし、「安定的な利益還元」を目指しております。

中長期的な内部留保を維持しつつ、将来の大成ラミックグループ全体のさらなる発展に向けて投資・強化を図りながら安定配当を継続していくことを基本方針とします。

この基本方針のもと、前期は節目の 60 期であったことから、一株当たり 10 円の増配となる年間配当 80 円/株といたします（本件は株主総会における承認を前提といたします）。

また、株主の皆様への還元を目的に自社株買いも実施いたします（別途開示資料をご参照ください）。

将来におきましては「成長」と「還元」のバランスを取り、上記基本方針に基づき適宜決定してまいります。引き続き、弊社事業へのご理解とご支援をお願い申し上げます。

以 上

《本資料に関する注意事項》

本資料に記載されている予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでいるため、将来の業績数値や施策の実現を確約、保証するものではありません。潜在的なリスクや不確実性等の業績に影響を与えうる要因については、経済情勢、需要動向、為替変動、原材料価格の変動等がふくまれますが、これに限定されるものではありません。